

## 今年度の研究の成果と課題まとめ

### I 研究視点に対する成果

<p>単元計画の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「子供の意欲に火をつけ続けるためにどうするか」という視点で工夫されたものが多かった。児童の「やりたい」を出発点とした問いの発見の場面での工夫。下級生への発表などまとめの場面での工夫。体験活動を複数回設定する情報収集の場面の工夫といった様々な工夫を年間通して共有できた。</li> <li>○単元の中でも、一時間の授業でも子どもたちのめあてを自己選択自己決定させたことがよかった。つくる、パワーアップ、くらべる。子どもたちの進度に合わせていた。流動的に行えた。</li> <li>○練馬大根の良さを知らせるというゴールを設定したことで、自分たちが何をすべきなのかをはっきりとさせることができた。</li> <li>○初めから練馬大根を学習するのではなく、区のマークやマスコットから学習したことで、思いや願いについて深く考えさせることができた。</li> </ul>
<p>他者との関わりの工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対話を多く取り入れた授業が見られた。単純な調べ学習ではなく、他者と対話することで「見えている情報」から「見えていない情報」に気付く分析が行えていた。</li> <li>○活動や体験場面に合わせた、意図的な問い返しをすることで試行錯誤したり、子ども同士の気づきの質を高めたりすることができた。</li> <li>○練馬大根にかかわる多くの人から話を聞いたことで、大根に関心をもつことができた。また、それにかかわる思いについても触れることができた。</li> </ul>
<p>他教科・活動との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年生は「大クエストの道具」としてシンキングツールの活用を行なった。総合で始めたシンキングツールの活用が他教科でも活用できている。継続して行うことの大切さを感じた。</li> <li>○授業の最後に、振り返りの時間を確保して学びを確認したり、次の時間のめあてを決めたりすることが、どの教科でも主体的な学びにつながるということが分かった。</li> <li>○本単元では、人々の思いについて多く触れることができたので、総合以外の学習でも、思いについて考えることができるようになった。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人的に ICT 活用の可能性をさらに感じた 1 年だった。校内全体がさらに ICT 活用が広がっていくと、学習の仕方も変わっていくと思うので、まだまだ頑張りたいです。</li> <li>○1年生と2年生と一緒に研究することで、今後の見通しが見え、1年生の間にどんな力をつければよいのかが分かった。</li> <li>○遊びに対する解像度があがった。遊びの中には、競争や、期待、創造、所感覚、協同が自然と子供の中から湧き上がってくるのが共通認識できた。</li> <li>○今までも練馬大根について教えることがあったが、今回の研究で多くの人の思いや、大根の歴史について深くしることができた。また、そのことで、自分事として教えることができる。</li> </ul>

## 2 研究視点に対する課題

<p>単元計画の工夫</p>	<p>▼帯で基礎経験を積ませるために1時間はとっていたが、素材それぞれで1時間ずつとるとよかったのか。(ゴム、磁石、おもり、かさの袋など)これを保育ドキュメンテーションにすると、おもちゃの幅も広がるのではないかな。</p> <p>▼単元を通して、多くの人にかかわることができたが、連絡調整が大変だった。少し精選する必要がある。</p> <p>▼また、プリントなど多くの準備が必要だったので、子供に託す場面を考える必要があった。</p>
<p>他者との関わりの工夫</p>	<p>▼今後は学年ごとに使えるシンキングツールを明確にして、系統的にツールが使えるとより対話の意味を高められると感じた。</p> <p>▼問い返したことによって出てきた気づきを、掲示物として残しておくべきだった。(保育ドキュメンテーション)</p> <p>▼隣のクラスも見ると遊ぶの幅も広がると思う。それぞれのクラスで保育ドキュメンテーションを作り、交流していくとよい。</p> <p>▼今回は、スタディフェスティバルに目標を定めたが、できれば区外への発信ができるとよい。(2月ごろに葛飾区学校と交流予定)</p>
<p>他教科・活動との関連</p>	<p>▼研究授業だけでは、他教科とどれくらいの関連させた指導ができていくかは判断しづらかった。</p> <p>▼総合・生活科は各教科で培う能力をベースに指導する教科なので、カリキュラムマネジメントを総合・生活科をコアとして行うことができるとよいと感じた。年度末に引き継ぎやカリキュラムマネジメント計画などが出せるとよいかもしれない。</p> <p>▼他教科の目標も入れ込んでいくとよい。学級会を開いて、やりたいことや目的意識を明確にさせるとよいのでは。</p> <p>▼時間数が増えてしまった。練馬大根の学習で1年間通しても良いかもしれない。</p>
<p>その他</p>	<p>▼個人的には、他の島の指導案検討とかも聞きたかったです。教師も「学びをじぶんのものに」できるとさらに楽しい研究になると感じました。</p> <p>▼環境設定を配慮する必要があった。</p> <p>①安全面②場の設定③用具の使い方④分かりやすさ</p> <p>▼広い場所で、経験させてあげれば、子供たちの遊びの幅も広がると思う。複数の教室を使用するなどして。</p> <p>▼今回は、断念してしまいましたが実際に練馬大根を育てることがあっても良いかもしれない。</p>

## 3 次年度に向けて要望・希望 (こんなことを学びたいなど)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的には、さらに学習を児童主体にしていきたいです。そのための声かけや指導方法などを学び合い、共有し合えると嬉しいです。</li> <li>・2月に葛飾区の学校と交流をするが、定期的に交流をしてもよいかもしれない。(次年度の2月ごろに再度交流できるようにお願いをする予定です)</li> <li>・地域や郷土の森の方、様々な人とかかわりを増やした活動をしたい。1回の活動で終わることなく、繰り返しの活動で、子どもの気づきの質を高めさせたい。</li> </ul>
---

まとめると…

単元計画の工夫	他者との関わり	他教科等との関連
<b>【成果】</b> 児童の「やりたい」に寄り添った単元計画を立てたり、「やりたい」と思うような課題のもたせ方を工夫したりすることで、児童が意欲的に取り組むようになった。 <b>【課題】</b> 教材や人材、教育資源をたくさん用意すればするほど、良い活動を行えるが、準備や連絡調整の時間を工夫することが必要。	<b>【成果】</b> 児童同士の対話や教師の問い返し、地域人材等を効果的に活用することができた。 <b>【課題】</b> 今年度行った取り組みを基に、次年度以降さらに高めていく必要がある。 ・シンキングツール ・保育ドキュメンテーション ・他校との交流	<b>【成果】</b> 今年度行った生活・総合の授業実践を他教科でも活用したり、児童の学びに生かしたりすることができた。 <b>【課題】</b> 他教科との関連が明確になっている体系表等を作成し、日常的に関連付けられるようにすることが必要。

次年度に向けて…

- ・児童が主体的に学び続けていくための教師の言葉掛け等の指導方法の研究
- ・他教科との関連表や地域人材活用一覧、保育ドキュメンテーションなど、環境面の整備

児童のアンケート結果から

1 学期

2 教科の学習はどのくらい得意ですか	
教科	学校の平均
国語	2.8
社会	2.9
算数	3.1
理科	3.1

2 学期

2 教科の学習はどのくらい得意ですか	
教科	学校の平均
国語	2.9
社会	3.1
算数	3.3
理科	3.1

3 学習する理由は何ですか

学習する理由	学校の平均
分かることやできることが楽しいから	3.4
しっかりと考えられるようになりたいから	3.3
将来の仕事や生活に役立つから	3.4
友達や先生と学習するのが楽しいから	3.5
学校の学習で人に負けたくないから	2.6
先生や家の人にほめられたり、ごほうびをもらえたりするから	2.5

学校の平均	
	3.5
	3.5
	3.6
	3.5
	2.7
	2.6

授業では、問題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じる機会が多いと思う。	3.4
授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。	3.3
授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。	3.2
授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。	3.3
授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。	3.2
授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。	3.2

	3.4
	3.3
	3.3
	3.2
	3.2
	3.2

令和8年度 研究構想図（案）

